［有明抄］（2018.4.10）

年　組　号（氏名）

○「百聞は一見にしかず」の意味を自分のことばで説明してみよう。

○数を使った故事成句、四字熟語、ことわざなどを調べてみよう。

ことば	意味（自分のことばで説明）

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

「百聞は一見にしかず」とは、このことだろう。玄海原発3号機の2次系配管で蒸気漏れが発生した問題である。紙面に載った写真では、黒いさびや、1㌢ほどの穴が開いているのがはっきり分かる◆「空気抜き管」と呼ばれるそうだが、いくら配管1本とはいえ、原発という高度に管理されているはずの施設の姿なのか。しかも雨水の浸入で腐食したという◆「さいなことだ」と考える人がいたら、大変だ。さいなことが見落とされてきたのなら、もっと大きなのは大丈夫なのかと考えるのが普通の感覚。再稼働前に、これ以上ないほど点検してきたのではなかったか◆思えば、東日本大震災から7年。福島第1原発事故の影響もあり、今も7万3千人が避難生活を送る。佐賀新聞社が昨秋行った県民世論調査では、玄海原発の再稼働には49％が反対と答えている。離島を抱えて避難計画の実効性など課題は残されたままだ◆実は、「穴」はほかにもあった。川内原発1号機（鹿児島）。1本の燃料棒から放射性物質が漏れていた。こちらも微小な穴が開いていたという。九電のホームページに載っている。専門用語が多く分かりにくいところもあるが、点検に穴はないか私たちも目を凝らしたい。「蟻の穴から堤も崩れる」。天下の大事もささいな欠陥がもとで起こるという戒めである。（丸）

35　30　25　20　15　10　5